Newsletter

第 10 号　2025 年 12 月発刊
日本糖尿病教育・看護学会 第 15 期 国際交流委員会

学会員の皆様
こんにちは、国際交流委員会より**ニュースレター第 10 号**をお届けいたします。
今回は、第 30 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会で国際交流委員会が行いましたシンポジウムと交流集会についての報告をいたします。今後も国際的な観点から学会員の皆様へ糖尿病看護に関する有用な情報を発信してまいります。

■■■トピックス■■■

1. 第 30 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会　国際交流委員会シンポジウムのご報告
2. 第 30 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会　国際交流委員会交流集会のご報告
3. 糖尿病関連国際学会情報
4. World Diabetes Day 情報

1. 第 30 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会　国際交流委員会シンポジウムのご報告

国際交流委員会では、2025年9月20日(土)に、第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会において、**「外国人糖尿病患者への療養支援を円滑に行うためのサポート資源の活用」**をテーマに、厚生労働省医政局総務課医療国際展開推進室室長の高山研先生、臨床現場で外国人糖尿病患者への療養支援を実践されている菅原加奈美先生(クリニックみらい立川)、河内あゆみ先生(日本赤十字社医療センター)をシンポジストにお迎えし、ご講演頂きました。

高山先生からは、厚生労働省で進められている外国人患者受け入れの施策や事業についてご紹介いただきました。13か国語に翻訳された問診票や検査説明、医療費請求などの資料や、外国人患者の受け入れのための医療機関向けマニュアルなど、様々な情報がホームページ上に公開されています。(厚生労働省医療の国際展開　https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/kokusai/index.html)

菅原先生からはクリニックでの実践について、症例を交えてお話し頂きました。母国とは保険診療や疾患管理が異なるだけでなく、その相違によって患者の疾患やコントロールの捉え方が異なることや、言語の壁を、翻訳ツールを用いながらの丁寧な聞き取りや説明で乗り越えながら支援を行う様子を具体的にお話し頂きました。スタッフがクリニックの役目として外国人患者の受け入れを捉えていることが印象的でした。

河内先生からは、メディフォンなどの通訳ツールや各種メーカーの資材やコールセンターの対応言語などについて、臨床で実際に活用されている立場からのご意見を交えながら具体的にご紹介いただきました。また、ラマダンやタロイモといった食文化の違いや他国の医療費制度の違いなど療養支援につながる文化の差についてお話し頂きました。

アンケート結果では、「外国人糖尿病患者の療養支援についての知識や工夫を知ることができた」
「日本の外国人政策について知る機会になった」の回答を多く頂き、自由記載でも「学会のテーマに沿った多様性の糖尿病支援がとても良く分かり、貴重な時間でした」などの意見をいただきました。

2. 第 30 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会　国際交流委員会交流集会のご報告

今回、国際交流委員会では「外国人糖尿病患者への療養支援の困りごとを語り合いませんか？」をテーマに交流集会を開催しました。 交流集会には、主に病院やクリニックなどの医療機関に所属される 24 名の方々にご参加いただきました。ご参加くださった皆さま、誠にありがとうございました。

当日はワールドカフェ方式で進行し、参加者の皆さまが日頃感じている困りごとを自由に語り合いながら、さまざまな視点や実践知を共有しました。

詳細は、次号に掲載予定です。この号では、内容の一部をご紹介します。

通訳者の不足や翻訳精度への不安、アプリ・ポケトークの限界など、**言語・コミュニケーションに関する課題**が最も多く挙げられました。また、「食直前」や「腹八分目」といった日本語特有の表現が伝わりにくいといった声もありました。そのほか、国によって医療制度が異なるために日本の制度とのギャップに戸惑う患者が多いことや、スリランカのお茶が非常に甘く、私たちがイメージする「お茶」と異なるといった**食文化や宗教習慣、価値観の違い**への配慮の重要性も再認識されました。

さらに、外国人患者の診療には日本人の3倍以上の時間を要する場合もあり、説明の理解確認に工夫が求められることなど現場運営への影響についても共有されました。こうした意見から、参加者が日々悩みながらも工夫を重ね、支援を続けている現状が浮かび上がりました。外国人患者が増加するなか、糖尿病をもつ外国人への療養支援には、言語・文化・制度の壁を越えた柔軟な対応が求められています。

今回の交流集会は、参加者の皆さまが臨床現場で直面している「困りごと」や「工夫」を共有し合うことで、多くの学びと気づきを得る貴重な機会となりました。

国際交流委員会では、今回寄せられた貴重なご意見を今後の活動に活かし、学会員の皆さまに還元できるよう努めてまいります。

3. 糖尿病関連国際学会情報

- **IDF-WPR 2026 & ADC 2026**
  2026 年 8 月 19 日～ 21 日 @メルボルン/オーストラリア
  https://diabetescongress2026.com/
- **American Diabetes Association's (ADA's) 2026** Scientific Sessions in New Orleans, LA, June 5–8, 2026 at the Ernest N. Morial Convention Center.
  2026 年 6 月5日 ～ 8日 @New Orleans /アメリカ
  https://professional.diabetes.org/scientific-sessions
- **ADCE2026**
  2026年 8 月7日～ 10日 @オハイオ州コロンバス/アメリカ
  https://www.adcesmeeting.org/
- **The 62nd Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes (EASD)**
- 2026年 9 月28日(月) ～ 10 月 2 日 @ミラノ/イタリア

4. World Diabetes Day 情報

「糖尿病とウェルビーイング(Diabetes and well-being)」が 2025 年世界糖尿病デーのテーマです。11 月 14 日のキャンペーンは「Diabetes and Workplace(糖尿病と職場)」に焦点をあてています。適切な医療へのアクセスとウェルビーイングを支える支援があれば、糖尿病のある人々が健やかに生きる機会を得られます。

第 15 期国際交流委員会　河井伸子・吉田多紀